

## 4. 環境保全行動の実態と今後の意向

### 4-1 環境保全行動（問4）

「水道の蛇口をきちんと閉める」「テレビや部屋などのあかりを消す」「ものは大切に使う」「ごみをきちんと分別する」という行動はほぼ定着し、「家で花や木を植える」「鉛筆やノートは環境に良いものを使う」の実施率も高い。しかし、「地域の掃除などに参加する」「買い物のときレジ袋をもらわない」「家族や友達などと環境問題について話し合う」の実施率は2分の1以下にとどまった。

日頃の生活における環境保全行動では、

- 「使わないときは、水道の蛇口をきちんと閉める」
- 「使わないときは、テレビや部屋などのあかりを消す」
- 「ものは長く使えるように大切に使う」
- 「ごみを、燃えるゴミ、燃えないゴミ、資源ゴミに、きちんと分別する」

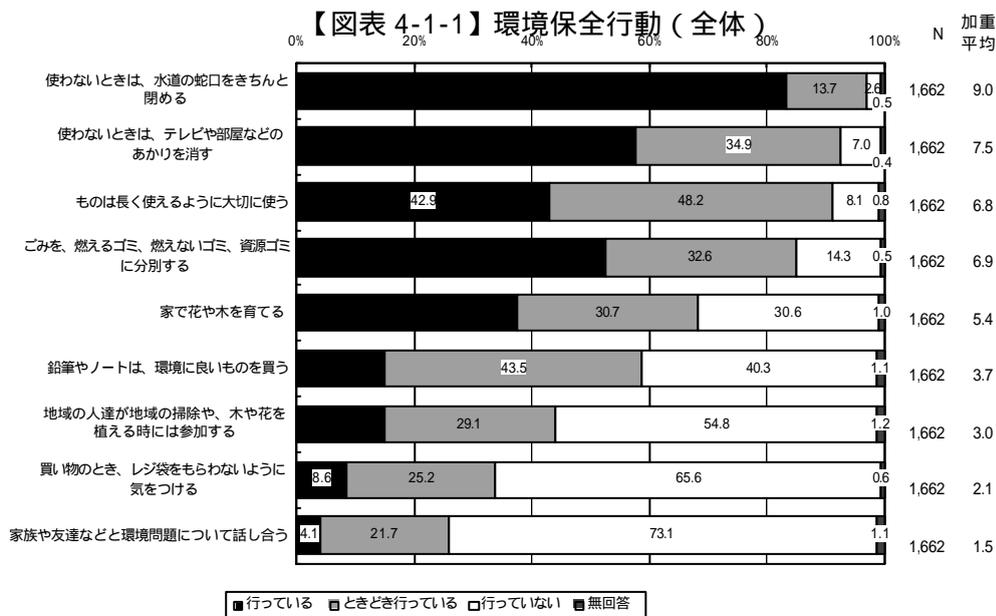
という行動がほぼ定着しており、これらの実施率（「行っている」と「ときどき行っている」の合計）は85～97%に達している。また、

- 「家で花や木を育てる」
- 「鉛筆やノートは、環境に良いものを使う」

の実施率も68%、59%と比較的高い。しかし、

- 「地域の人たちが、地域の掃除や、木や花を植える時には参加する」
- 「買い物のとき、レジ袋をもらわないように気をつける」
- 「家族や友達などと環境問題について話し合う」

の実施率は低く、いずれも50%に達していない。



注) この項の加重平均は、「行っている」に10点、「ときどき行っている」に5点、「行っていない」に0点を与えて算出した。

どの行動の実施率も小学生が中学生を上回っているが、特に「地域の人たちが、地域の掃除や、木や花を植える時に参加する」「鉛筆やノートは、環境に良いものを使う」での差が大きく、これらの実施率は小学生が中学生を 20 ポイント以上上回っている。

性別にみると、女子の実施率が「家で花や木を育てる」(77%)、「ごみを、燃えるゴミ、燃えないゴミ、資源ゴミに、きちんと分別する」(91%)で男子を大きく上回っている。

都市規模別では、都市規模が小さくなるほど「ごみを、燃えるゴミ、燃えないゴミ、資源ゴミに、きちんと分別する」「地域の人たちが、地域の掃除や、木や花を植える時には参加する」の実施率が高くなる傾向がみられる。また、町村部は「家族や友人などと環境問題について話し合う」(33%)、「鉛筆やノートは、環境に良いものを買う」(68%)という行動が他の都市規模に比べ高いという特徴もある。

【図表 4-1-2】環境保全行動(学齢別、性別、都市規模別)  
(「行っている」と「ときどき行っている」の合計比率)

(%)

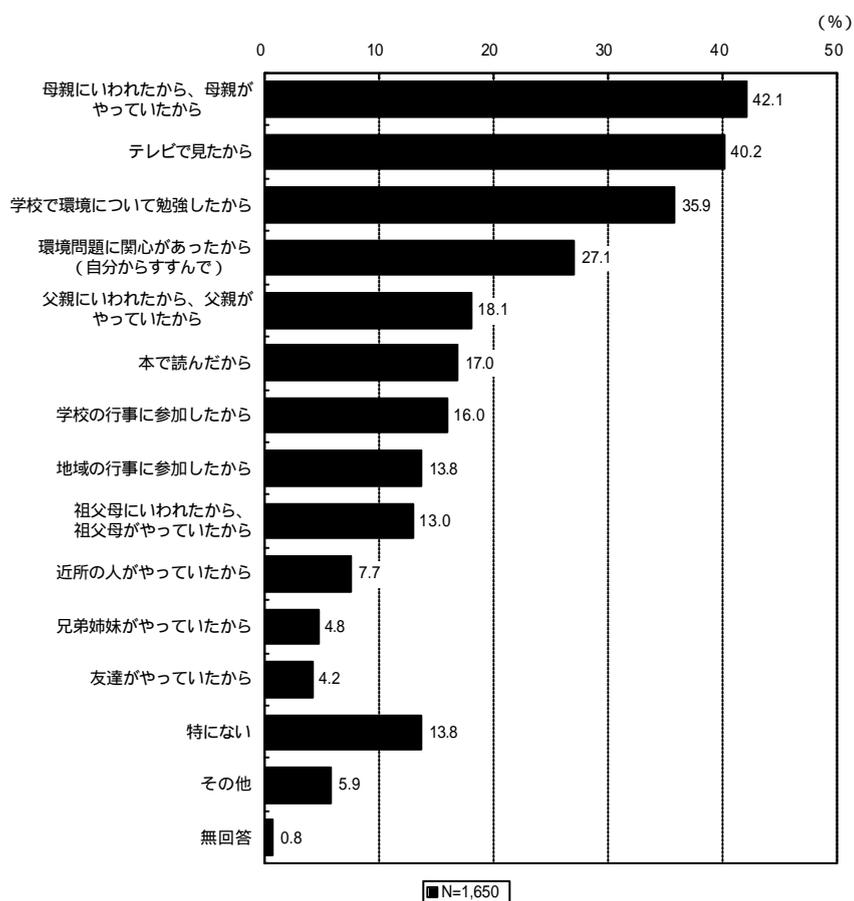
	全 体	学齢別		性別		都市規模別			
		小 学 生	中 学 生	男 子	女 子	政 令 指 定 都 市	1 0 万 人 以 上	1 0 万 人 未 満	町 村
調査数	1,662	755	907	881	772	299	538	341	484
使わないときは、テレビや部屋などのあかりを消す	92.6	94.0	91.4	91.2	94.3	91.3	91.1	94.4	93.9
使わないときは、水道の蛇口をきちんと閉める	96.9	98.2	95.8	96.1	97.6	97.3	96.7	96.5	97.1
家で花や木を育てる	68.4	75.2	62.8	61.3	76.6	67.2	68.2	63.6	72.7
ごみを、燃えるゴミ、燃えないゴミ、資源ゴミに分別する	85.1	87.6	83.1	80.0	91.0	82.6	84.2	85.7	87.4
地域の人達が地域の掃除や、木や花を植える時には参加する	44.1	57.6	32.7	42.8	45.6	33.8	35.5	41.6	61.5
ものは長く使えるように大切に使う	91.1	93.2	89.3	90.2	92.3	91.3	90.0	90.0	93.0
家族や友達などと環境問題について話し合う	25.8	32.6	20.1	24.6	26.9	22.4	23.6	21.5	33.3
鉛筆やノートは、環境に良いものを買う	58.6	70.1	49.0	57.7	59.8	57.9	55.2	51.9	67.5
買い物のとき、レジ袋をもらわないように気をつける	33.8	41.1	27.7	33.9	33.4	37.4	35.5	24.1	36.4

## 4 - 2 環境保全行動の契機（問5）

環境保全行動は、母親・テレビ・学校の影響で始めた子どもが多い。特に小学生で学校、テレビ、女子で母親の影響が強い。

4 - 1の環境保全行動を1つでも行った子どもに対し、行い始めた契機を尋ねたところ、「母親にいわれたから、母親がやっていたから」が42%、「テレビで見たから」が40%、「学校で環境について勉強したから」という回答が36%となっており、母親・テレビ・学校の影響が特に強い。この3項目以外では、「環境問題に関心があったから」(27%)が比較的多いが、父親、祖父母、兄弟姉妹といった母親以外の家族や友達、学校や地域の行事などの影響はあまりない。

【図表 4-2-1】環境保全行動の契機（複数回答）(全体)



小学生は中学生に比べ「学校で環境について勉強したから」(52%)、「テレビで見たから」(46%)、「環境問題に関心があったから」(33%)、「本で読んだから」(24%)、「学校の行事に参加したから」(20%)、「地域の行事に参加したから」(21%)という回答が多くみられる。

性別にみると、女子は男子よりも「母親にいわれたから、母親がやっていたから」(48%)、「学校で環境について勉強したから」(39%)という回答が多いという特徴がある。

都市規模別では、町村部で「学校で環境について勉強したから」(45%)、「地域の行事に参加したから」(22%)が他の都市規模に比べ多くみられる。

【図表 4-2-2】環境保全行動の契機（複数回答）（学齢別、性別、都市規模別）  
(%)

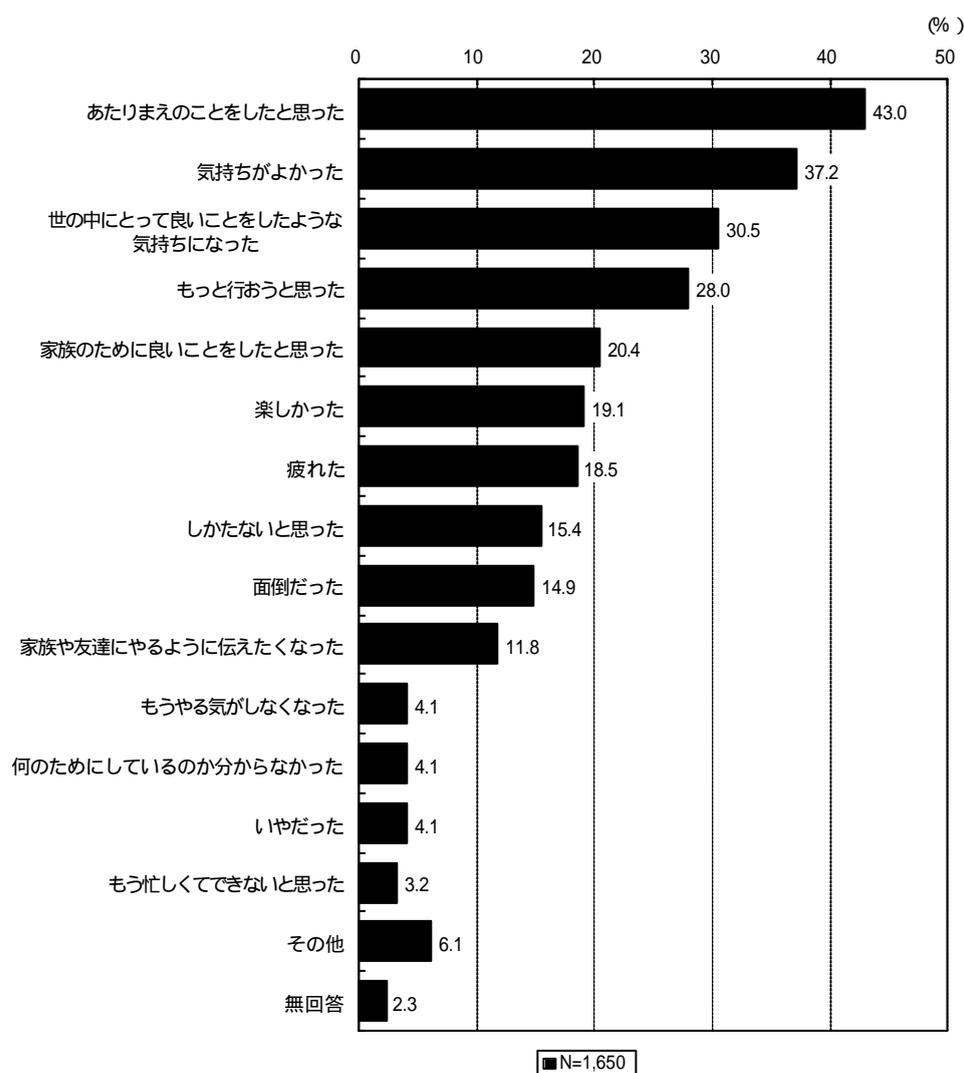
	全 体	学齢別		性別		都市規模別			
		小 学 生	中 学 生	男 子	女 子	政 令 指 定 都 市	1 0 万 人 以 上	1 0 万 人 未 満	町 村
調査数	1,650	753	897	872	769	297	531	339	483
母親にいわれたから、母親がやっていたから	42.1	40.2	43.6	36.8	47.6	40.4	44.4	44.0	39.1
テレビで見たから	40.2	46.2	35.1	39.3	41.1	38.4	40.5	39.2	41.6
学校で環境について勉強したから	35.9	51.9	22.4	32.9	39.3	36.0	34.5	25.1	44.9
環境問題に関心があったから (自分からすすんで)	27.1	33.1	22.1	25.3	28.9	25.3	25.8	24.2	31.7
父親にいわれたから、父親がやっていたから	18.1	19.0	17.4	18.8	17.3	17.2	16.9	21.2	17.8
本で読んだから	17.0	23.6	11.4	17.5	16.1	15.8	15.1	16.8	19.9
学校の行事に参加したから	16.0	20.1	12.6	16.9	15.1	14.8	15.1	17.7	16.6
地域の行事に参加したから	13.8	20.7	7.9	14.0	13.5	7.7	10.0	13.9	21.5
祖父母にいわれたから、祖父母がやっていたから	13.0	15.5	10.8	12.3	13.8	8.4	9.8	15.6	17.4
近所の人やっていたから	7.7	10.6	5.2	8.6	6.8	5.7	7.9	5.9	9.9
兄弟姉妹がやっていたから	4.8	4.4	5.2	4.8	4.9	5.7	5.1	5.0	3.9
友達がやっていたから	4.2	5.6	3.0	5.6	2.6	6.7	3.6	3.8	3.5
特にない	13.8	8.5	18.3	16.3	11.2	16.5	15.4	14.7	9.7
その他	5.9	5.2	6.5	7.1	4.3	6.7	6.6	5.3	5.0
無回答	0.8	0.7	1.0	1.3	0.4	1.7	0.6	0.9	0.6

### 4 - 3 環境保全行動の際の気持ち（問6）

環境保全行動を行った際の気持ちは「あたりまえのことをした」「気持ちよかった」「世の中にとって良いことをしたような気持ち」「もっと行おうと思った」が上位にあり、環境保全に前向きな姿勢があらわれている。

4 - 1 に示した環境保全行動を1つでも行った子どもに対し、行った際の気持ちを尋ねたところ、「あたりまえのことをしたと思った」(43%)、「気持ちよかった」(37%)が4割前後で上位となった。これらに加え、「世の中にとって良いことをしたような気持ちになった」(31%)、「もっと行おうと思った」(28%)という気持ちも3割前後と強い。また、「疲れた」(19%)、「しかたがないと思った」「面倒だった」(各15%)、「もうやる気がしなくなった」「何のためにしているのか分からなかった」(各4%)という気持ちは相対的に弱く、環境保全行動に前向きに取り組もうとする姿勢が示されている。

【図表 4-3-1】環境保全行動の際の気持ち（複数回答）(全体)



小学生は、「気持ちが悪かった」(52%)、「世の中にとって良いことをしたような気持ちになった」(43%)、「もっと行おうと思った」(38%)、「家族のために良いことをしたと思った」(29%)の比率が高い。これに対し、中学生は、「あたりまえのことをしたと思った」(48%)という意識が強く、「しかたがない」(20%)という意識も小学生に比べ強くなっている。

性別にみると、女子は「あたりまえのことをしたと思った」(47%)、「気持ちが悪かった」(40%)、「世の中にとって良いことをしたような気持ちになった」(34%)、「もっと行おうと思った」(36%)という意識が強いのに対し、男子は「疲れた」(25%)、「面倒だった」(18%)という意識がやや強くなっている。

都市規模別では、10万人未満で「面倒だった」(20%)、町村部で「気持ちが悪かった」(45%)、「世の中にとって良いことをしたような気持ちになった」(36%)、「もっと行おうと思った」(33%)、「楽しかった」(26%)という意識が全体に比べやや高くなっている

【図表 4-3-2】環境保全行動の際の気持ち（複数回答）(学齢別、性別、都市規模別)

	全 体	学齢別		性別		都市規模別			
		小学 生	中学 生	男 子	女 子	政 令 指 定 都 市	1 0 万 人 以 上	1 0 万 人 未 満	町 村
調査数	1,650	753	897	872	769	297	531	339	483
あたりまえのことをしたと思った	43.0	37.2	47.9	40.0	46.7	45.1	43.7	45.7	39.1
気持ちが悪かった	37.2	51.8	24.9	34.7	40.1	36.0	33.3	33.0	44.9
世の中にとって良いことをしたよ うな気持ちになった	30.5	42.8	20.2	27.8	33.7	26.6	29.4	28.3	35.6
もっと行おうと思った	28.0	37.7	19.8	21.4	35.8	26.6	28.4	21.2	33.1
家族のために良いことをしたと 思った	20.4	29.3	12.8	18.7	22.4	18.5	18.5	21.2	23.0
楽しかった	19.1	29.1	10.7	18.5	19.8	17.8	16.0	15.0	26.1
疲れた	18.5	21.5	15.9	24.7	11.3	14.8	17.7	21.2	19.7
しかたないと思った	15.4	10.0	20.0	18.5	11.6	15.2	14.5	19.5	13.7
面倒だった	14.9	11.3	17.9	18.2	10.8	13.8	15.6	20.1	11.2
家族や友達にやるように伝えたく なくなった	11.8	17.1	7.2	9.1	14.8	8.4	11.1	10.3	15.5
もうやる気がなくなった	4.1	4.5	3.7	6.0	1.6	4.0	3.4	4.4	4.6
何のためにしているのか分から なかった	4.1	4.0	4.1	5.7	2.2	3.7	3.8	5.9	3.3
いやだった	4.1	4.6	3.7	5.6	2.2	2.7	3.8	5.3	4.6
もう忙しくてできないと思った	3.2	4.1	2.3	4.6	1.3	2.7	3.2	2.7	3.7
その他	6.1	4.8	7.1	5.4	6.9	6.4	7.2	5.9	4.8
無回答	2.3	1.6	2.9	2.5	2.1	4.4	1.7	1.5	2.3

#### 4 - 4 環境保全行動に対する今後の意向（問7）

「水道の蛇口をきちんと閉める」「ものは長く使えるように大切に使う」「テレビや部屋などのあかりを消す」の行動意向が全般的に高く、このうち、「テレビや部屋などのあかりを消す」「水道の蛇口をきちんと閉める」は都市規模が小さくなるほどその行動意向が強くなっている。

4 - 1の環境保全行動のそれぞれについて「行っていない」と回答した子どもが、今後は行おうと思っている環境保全行動は、「使わないときは、水道の蛇口をきちんと閉める」（66%）、「ものは長く使えるよう大切に使う」（66%）、「使わないときは、テレビや部屋などのあかりを消す」（60%）が6割前後と上位を占めた。また、「ごみを、燃えるゴミ、燃えないゴミ、資源ゴミに分別する」（40%）、「買い物のとき、レジ袋をもらわないように気をつける」（37%）、「鉛筆やノートは、環境に良いものを買う」（35%）も3割にのぼった。しかし、「家で花や木を育てる」（19%）、「家族や友人などと環境問題について話し合う」（15%）、「地域の人たちが、地域の掃除や、木や花を植える時には参加する」（15%）は2割を下回った。

【図表 4-4-1】環境保全行動に対する今後の意向（全体）



どの項目の行動意向も小学生が中学生を上回っているが、特に「家で花や木を育てる」(61%)「地域の人たちが、地域の掃除や、木や花を植える時には参加する」(44%)の差が大きく、この2項目の比率は小学生が中学生を21ポイント上回っている。

性別にみると、すべての行動意向で女子が男子を上回っているが、特に「家で花や木を育てる」(59%)「ごみを、燃えるゴミ、燃えないゴミ、資源ゴミに分別する」(76%)での差が大きい。

都市規模別では、都市規模が小さくなるほど「使わないときは、テレビや部屋のあかりを消す」「使わないときは、水道の蛇口をきちんと閉める」「家で花や木を育てる」の意向が強い傾向にある。また、町村部は他の都市規模よりも「鉛筆やノートは、環境に良いものを買う」(60%)、「地域の人たちが、地域の掃除や、木や花を植える時には参加する」(46%)「家族や友人などと環境問題について話し合う」(28%)の意向が強く出ている。

【図表 4-4-2】環境保全行動に対する今後の意向(学齢別、性別、都市規模別)

	(%)								
	全 体	学齢別		性別		都市規模別			
		小 学 生	中 学 生	男 子	女 子	政 令 指 定 都 市	1 0 万 人 以 上	1 0 万 人 未 満	町 村
調査数	1,662	755	907	881	772	299	538	341	484
使わないときは、テレビや部屋などのあかりを消す	83.0	84.6	81.6	80.0	86.4	76.6	83.1	84.2	86.0
使わないときは、水道の蛇口をきちんと閉める	81.1	84.9	77.9	78.9	84.2	75.9	80.3	81.8	84.7
ものは長く使えるように大切に使う	77.0	82.9	72.0	74.0	80.4	72.6	77.5	75.1	80.4
ごみを、燃えるゴミ、燃えないゴミ、資源ゴミに分別する	68.5	71.7	65.9	62.8	75.5	69.6	66.0	67.4	71.5
鉛筆やノートは、環境に良いものを買う	54.6	63.0	47.6	51.6	58.3	53.2	54.3	48.4	60.3
家で花や木を育てる	49.2	60.8	39.6	40.9	58.7	43.1	47.0	48.4	56.0
買い物のとき、レジ袋をもらわないように気をつける	48.4	53.8	44.0	44.0	53.5	48.8	49.1	41.9	52.1
地域の人達が、地域の掃除や、木や花を植える時には参加する	32.9	44.1	23.5	29.5	37.0	23.7	29.7	27.0	46.1
家族や友人などと環境問題について話し合う	23.3	29.7	18.1	20.9	26.2	20.7	23.2	18.8	28.3
無回答	1.8	0.8	2.6	2.3	1.3	3.3	1.5	0.9	1.9